●第2回

日時：7月26日(土)　14:00～17:00

場所：九州大学経済学部4階408号

テーマ1：企業における原価差異分析の展開

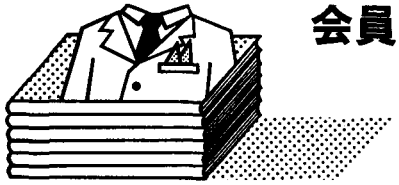
浜田和樹（西南学院大学商学部助教授）

原価差異分析の現状と問題点を概観し，Mensahの方法をおし進めた．過去の投入量と産出量のデータをもとにCharnes, Cooper & Rhodes などのLPモデルを用いて能率度を求めることによって差異分析のフレームワークを示した．

テーマ2：Mathematical Programming and Inequalities

Prof. Chung-Lie Wang, Dept. of Math. & Stat., University of Regina, CANADA

順序制約下の Hölder 不等式は Karush-Kuhn-Tucker定理を用いて証明されているが，今回はMajorization にもとづく簡単な証明を与えた．また，一般化された Hölder 不等式，Beckenbach 不等式の証明が数理計画の立場から行なわれた．



会員近況

岩手大学　人文社会科学部　**石川　明彦**

20年近く通い慣れた東京の勤め先から盛岡へ着任して早くも3カ月が過ぎてしまい，着任の時には，真っ白だった周囲の山々がだんだん白さが細くなり，いまでは白い筋だけになってしまいました．職場が変わったと言っても，以前と同じような大学（1，2年）生を相手に，以前と同じような講義をしているので，本質的に変化のない転職でした．しかし，まったく変わってしまった環境が2つあります．

1つは，「混雑」の状況です．自分の研究テーマに多少縁があるので，特に感じるのでしょうが，以前の勤め先では，朝夕の「通勤」，学内での「学生たち」（学内での「雑用」），「街の中の雑踏」すべてが混雑そのものでしたが，ここでは，朝夕の「通勤」も学内の「学生たち」も「街の中」もまったくの混雑知らずです．

もう1つの環境の変化は，指導していただける先生はおろか，研究仲間が（当会員で専攻の近い方1人工学部におられるだけで）いないことです．OR学会で活躍されておられる方は，学内はもちろんのこと，県内にもおいでにならず，最寄りの研究者は，仙台ということになりそうです．これまでどおり「待ち行列」に関する研究を細々と続けるためにも，仙台，東京に，頻繁に顔を出さねばと思っているところです．

以上2つの環境の変化から，そろそろ自分の研究テーマを変えたほうが良いかな，とあまり熱心に研究もせずに，東京の方を向いて悩んでいます．

でも，専攻が違っていても，学内や県内にOR的思考を持っておられる先生方がおいでになられると思うので観点を変えて，いかにして効率よくその先生を捜し出すか，「生きたOR」を試みようと思っております．

九州大学　経済学部　経済工学科　**時永　祥三**

現在関心をもって行なっている研究について紹介します．分野としては情報管理と LAN (Local Area Network) およびディジタル信号処理で，ORとしては前2つが中心です．情報管理については脳波，経済データといった時系列データのデータベース化に取り組んでいます．時系列は生データとして長大で記憶容量をくうことの他に，特徴づけがむずかしく，「このような波形をもつ時系列を捜せ」というのは今まであまりありません．そこで特徴を自然語に近い形で一定の生成規則にしたがって記述する方法を提案しています．現在，素人でも扱かえるよう日本語処理部を開発中です．次の LAN はこれからのOA (Office Automation) に不可欠なものです．特に，音声，データ，ファイルという種類の違った，したがって送信の優先度の異なった多元トラヒックが加わったときの特性を調べることが大切で，現在，予約制御LANを中心に解析しています．LAN のモデルシステム作りとあわせて，16台の16ビットマイクロプロセッサ集合による並列計算機も製作中です．

九州大学　工学部　土木工学科　**大塚　久哲**

斜張橋と呼ばれる長大橋梁に適した橋梁形式があります．これは一般に多数のケーブルを主塔から斜めに張り

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

渡して桁に定着する方式の橋なのですが，ケーブルの一部を主桁を介して橋台（地盤）に定着しますと，経済的な斜張橋にすることができるようです．この新形式の斜張橋と従来の斜張橋および吊橋との経済性比較を行ないました研究が，本会誌編集者のお目にとまり，昨年10月号の特集“建設・建築のＯＲ”に掲載させていただきました．

これが機縁で本会へのお誘いを受け，現在，会誌や支部研究会で提供される異分野からの興味ある情報を楽しんでいるところです．

今年は，コンクリート桁と鋼桁とを併用した新しいタイプの複合斜張橋の最適構造設計を行なって，ここ数年来手がけてきました長大斜張橋の開発に関する研究にひとくぎりをつけたいと考えています．

最後になりましたが，会員の皆様のますますのご活躍と，本学会の今後のご発展を祈念いたします．

会合記録

理事会　7月1日(火)（18）
編集委員会(ＯＲ誌)7月2日(水)(7)
表彰委員会　7月3日(木)（7）
庶務幹事会　7月4日(金)（7）
財政問題検討委員会
　7月18日(金)（6）
普及小委員会　7月24日(木)（7）

第2回理事会議題(61.7.1)

1．第1回理事会議事録の件
2．支部長会議開催報告の件
3．庶務幹事追加の件
4．職員就業規則改訂の件
5．入退会の件
6．会員増強の件
7．財政問題検討委員会（案）
8．第1四半期収支計算報告の件
9．昭和61年度春季研究発表会終了報告の件
10．昭和61年度秋季研究発表会準備状況報告の件
11．昭和62年度春季研究発表会の件
12．国際数理計画シンポジウムの件
13．科研費交付の実態調査の件
14．ＦＭＥＳ第2回連合シンポジウムの件
15．ＡＰＯＲＳ理事会の件
16．ＡＰＯＲＳへの協力の件
17．IFORS Representative の件
18．視察団派遣準備の件
19．その他

編集後記▶夏休みも終り，それぞれのお仕事に忙しい日々をお過ごしのことと存じますが，秋のスケジュールに研究発表会，シンポジウムに参加いただけるよう予定をお組み込みください．▶今回は高橋浩一郎フェローをわずらわせ，9月1日「防災の日」を機に久しぶりに災害特集を組みました．「天災は忘れた頃やってくる」とは高橋フェローの恩師寺田寅彦先生の名言です．予告なしに襲ってくる災害の対策にＯＲをもっと役立てることができないか考えてみたいと存じます．▶来年早々に「雪」に関する特集号を出すべく編集委員会が想を練っております．わが国の積雪寒冷地域は面積で61％，人口で23％を占めるといわれています．雪による災害の予防はもとより，積極的に雪を利用する課題について触れたいと考えています．会員の皆様のサジェスチョンをお待ちしています．（K）

オペレーションズ・リサーチ

昭和61年9月号　第31巻（新シリーズ第11巻）9号　通巻309号
代表者　吉山博吉
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2－4－16　学会センタービル
(電話　03-815-3351～2)　〒113
編集人　柳井　浩
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ケ谷5－4－2　〒151

• 本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ　定価　850円（郵送料含）年間予約購読料 9600円（郵送料含）
• 本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548），日経弘報社（563-2241）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．